



No.108

2018年6月19日

公益社団法人日本山岳会富山支部

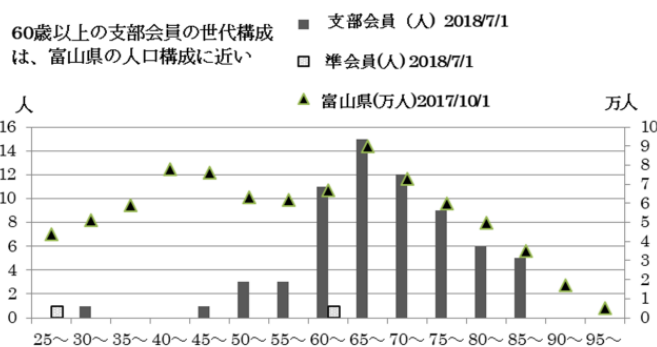
支部長就任のあいさつ

私は、黒部の在で生まれ育ち、高校を卒業して以来ずっと富山を離れていました。5年ほど前に仕事を辞めて黒部に戻ったのを機に、富山支部に移籍をして皆様の仲間に加えていただきました。数えて古希を迎え、体力・気力の衰えを感じることも多くなり、年齢相応の山との付き合い方を模索しています。支部70年の伝統は、そんな私には荷が重いのですが、よろしくお願いします。



今後の富山支部のことを思う時、一番の気がかりは、自分を含めて日本山岳会の高齢化です。現在、富山支部の平均年齢は69歳、日本山岳会の平均も69歳（平成25年当時、会報「山」No.832「高齢化が進む日本山岳会」2014年9月号参照）ですが、山岳会全体としてみれば、曲がりなりにも若い会員から高齢者まで世代が連続しているのに対し（日本山岳会の年齢構成については、会報「山」No.875「オトモダチ作戦」2018年4月号参照）、富山支部は、将来を担う青壮年世代に大きな空白があります。グラフは、富山支部の会員数と富山県の人口を5歳刻みに表したのですが、60歳以上とそれ以下の鮮やかな対比には驚きました。このまま推移すれば、本部はなんとか世代交代ができるとしても、支部は相当厳しいといわざるをえません。

このような状況を打開する妙案はありませんが、北アルプスを控えた地の利を生かし、多彩な構成員による“7人の侍”のような集団として活動を続けていけば、将来が見えてくるかもしれません。就任早々、もっと元気のでる話をすべきではありますが、明日への展望は現実を直視することから始まるということで、ご容赦ください。



(鍛冶哲郎 記)

目	次
支部長就任のあいさつ.....鍛冶哲郎	1 夫婦山偵察山行.....渋谷茂 6
富山支部創立70周年記念式典・祝賀会を開催	第33回播隆祭を開催.....河合義則 7
.....松本睦男	2 記念登山・高頭山.....金尾誠一 7
記念講演要旨.....飯田 肇	2 登山道整備と標識設置・北田幹夫・石溪秀満 9
平成30年度支部総会の報告.....河合義則	3 同好会「播隆研究会(仮称)」を発足.....金尾誠一 9
富山支部「登山計画書」の提出方法について	富山支部ホームページ開設.....浦井直幸 10
.....渋谷茂・山田信明	4 会員動向..... 10
黒菱山(1,043m)山行.....森田裕子	5 山行計画等案内..... 11
5月例会山行「夫婦山に登ろう」.....瀬川富士夫	6 編集後記.....北田幹夫 11

富山支部創立 70 周年記念式典・祝賀会を開催

富山支部創立 70 周年を記念して講演会・式典・祝賀会を平成 30 年 3 月 25 日（日）に富山第一ホテルで開催し、次の 10 年へ向けて支部の活性化と安全登山への情報発信など活動充実に決意を新たにしました。本部より小林政志会長、京都・滋賀、福井、石川の各支部長と会員、富山県山岳連盟会長及び役員、加盟団体会員、富山市山岳協会会長、北日本新聞社編集局長、富山テレビ放送社長はじめ、支部会員 38 名の参加をいただき盛大に開催した。



記念講演会は 14 時から式典出席者及び一般を含め約 100 名の参加があり、飯田肇会員の「立山・剣岳に氷河が現存！富山支部ホームグラウンドの魅力」と題しての講演でした。（要旨は下記、詳細は 70 周年記念誌を参照）。式典・祝賀会には来賓はじめ、62 名の出席があり、講演会后、全員による記念撮影をおこない、式典に移った。式典は山田支部長の式辞のあと、感謝状を 10 名

の会員と 1 名の故人に贈呈した。小林政志日本山岳会会長、中川博人石川支部長の祝辞、受賞者を代表して木戸繁良会員から謝辞があり、松本実行委員長の開会挨拶で式典を終えた。

祝賀会は山田支部長の「映像による富山支部 10 年の歩み」の紹介から始まり、富山県山岳連盟永山義春会長、北日本新聞社勢藤和弘編集局長、富山テレビ放送中西修社長の祝辞があり、森田信人福井支部長の乾杯で祝宴に入った。余興では金尾会員による詩吟と奥さんの金尾志津子さんによる篠笛の演奏があり、祝宴に華を添えて頂いた。祝宴が進み、富山市山岳協会の大田郁夫会長から中締めがあつて、鍛冶副支部長のお礼の挨拶でお開きとなった。

創立 70 周年記念誌を発刊し、昨年から実施してきた 70 周年記念事業も無事終えることが出来ました。多くの会員のご協力、ご支援の賜であり感謝申し上げます。富山支部の底力を実感いたしました。（役職は 3 月 25 日時点）（松本睦男 記）

富山支部創立 70 周年記念寄付の報告

70 周年記念事業にご寄付いただいた総額は 91 万 5 千円になりました。59 名の会員からご寄付いただきました。会報 107 号に平成 30 年 2 月 28 日時点でのご芳名を記載させていただきましたが、その後に寄付をいただきました方のご芳名を記載いたします。ありがとうございました。

1 万円＝長崎喜一、中島博明(敬称略)

記念講演会講演要旨「立山・剣岳に氷河が現存!」 飯田 肇

氷河という語は岳人にとって憧れとロマンの対象です。これまで日本に無いと言われてきた氷河を、2012 年に富山支部のホームグラウンドである立山連峰で発見することができました。

氷河とは、「重力によって長期間にわたり連続して流動する雪氷体（雪と氷の大きな塊）」（日本雪氷学会編『雪と氷の辞典』、2005 年）と定義され、厚い氷体を持つこと、氷体が流動しているこ

とがその条件となります。これまで、日本国内には、この定義を満たす「氷河」は存在しないと言われてきました。名古屋大学等の調査により、立山の内蔵助雪渓に厚さ 30m に達する氷河流動の痕跡を残す氷体が存在することはわかっていましたが、氷体の流動が確認できなかったため氷河と呼ぶには至っていませんでした。



そこで、富山県立山カルデラ砂防博物館の研究チーム（飯田・福井）が、これらの大規模な万年雪の中で現在でも氷河として活動しているものが存在しないかの確認調査を実施しました。注目したのは特に規模の大きな万年雪で、立山の雄山(3003m)東面の御前沢雪渓、剣岳(2999m)東面の三ノ窓雪渓と小窓雪渓です。調査では、氷体の厚さ、氷体の流動量を主に調べました。氷体の厚さの観測は、アイスレーダーを用いて地面までの距離を測定し、氷体の流動は、9月初旬に氷体表面に固定したポールの位置を10月中旬まで高精度GPSで測量して求めました。調査の結果、各雪渓ともに厚さ20mの積雪の下に厚さ30m以上の氷体が確認されました。特に三ノ窓雪渓の氷体は、最大の厚さが70mに達し長さも1kmを超える日本最大級のものです。また、各雪渓で約1ヶ月間に10～30cm程度の氷体の流動が観測されました。これはヒマラヤなどの小型氷河の流動量に匹敵するものです。

これらの結果は、2012年、日本雪氷学会に学術論文として受理され、立山・剣岳の3つの多年性雪渓は現存する氷河と学術的に認められました。これにより、極東地域の氷河の南限がカムチャツカ半島から立山まで大きく南下することになります。また、これらの氷河は世界的に見れば最も温暖な地域に存在する氷河といえ、今後の調査でその独特の形成維持機構の解明が期待されるところです。富山支部の一番のホームグラウンドである立山・剣岳に「氷河を抱く山」としてのロマンと魅力を新たに加えることが出来、調査した者の一人として感無量の思いを抱いています。

平成 30 年度支部総会の報告

平成 30 年度富山支部総会が 4 月 18 日午後 6 時より富山電気ビルにて開催されました。参加者 24 名、委任状 36 名で総会は成立したことを確認して議事に入りました。平成 29 年度事業報告、収支決算報告、監査報告、平成 30 年度事業計画、予算案と議事は進行し、支部創立 70 周年記念事業内容の報告と収支決算報告の審議となり、すべて承認されました。

平成 29 年度中に記念登山として、九州久住山系とブータントレッキングを実施しました。その他支部創立 70 周年記念式典の開催、記念誌の発行等会員の皆様方のご協力を得て無事に行事を行うことができました。

今年は役員改選の年に当たり、これまで 10 年間富山支部長として活躍していただいた山田信明会員に代わって鍛冶哲



郎会員が新支部長に就任されることが決定しました。どうぞよろしくお願い致します。平成 29 年度は、亡くなられた会員が 1 名、諸般の事情で退会された方がいらっしゃいましたが、新入会員が 2 名おられ、総勢 68 名の支部会員数となりました。これから 80 周年に向かって新たなスタートを迎えることとなります。懇親会は山の話や会員の近況報告や様々な出来事等について和やかな懇談の時間となりました。今年一年どうぞよろしくお願い致します。(河合義則 記)

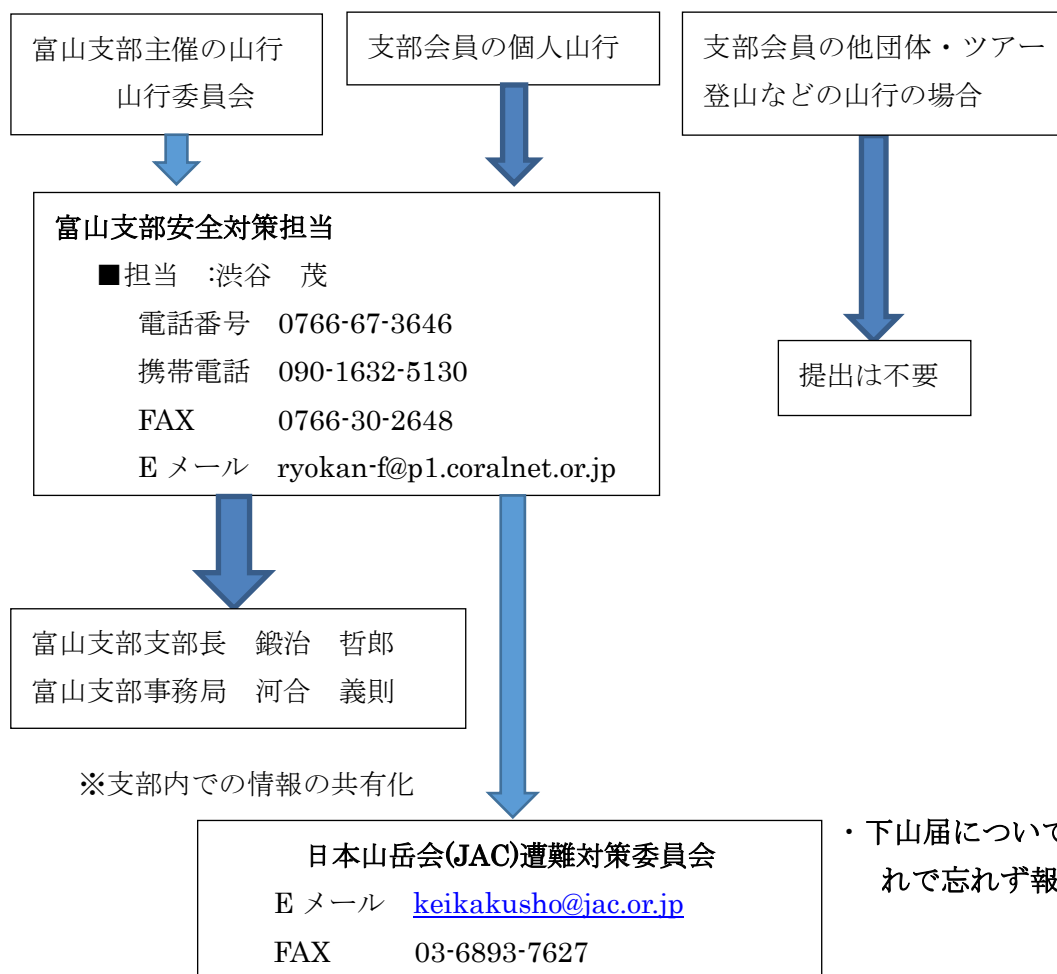
日本山岳会富山支部「登山計画書」の提出方法について

(1) 「遭難対策規定の改定について (H30. 2)」の経緯

富士山、幌尻岳で日本山岳会会員の悲しい死亡事故が続いたことから、JAC 遭難対策委員会では「遭難対策規定」「遭難対策運用要領」が改訂されました。それを受け、登山計画書の提出方法も整備され、会報「山」やホームページで周知されているとおりです。富山支部では総会の席で説明させていただきましたが、支部の新体制発足後の役員会において山行安全対策について検討し、登山届提出の流れを決定しましたので会員の皆様にお伝えします。安全登山のため、山行される時は登山計画書を作成して支部に提出するとともに、従来どおり登山口や、各家庭にも置いてください。

(2) 富山支部の「登山届」について

- ・登山計画書の本部への提出の流れについては下記の通りとする。



・下山届についても同様の流れで忘れず報告すること。

(3)運用について

- ・日本山岳会富山支部のホームページで「登山計画書」(PDF・WORD版)をダウンロードできるようにする。
- ・安全対策についての事業(現地での技術習得、気象学習、救急救命など)について検討。
- ・メーリングリストなどの活用についても検討する。
- ・「山と自然ネットワーク」の「コンパス」というアプリを使用して計画書を作成し届出することも可能。<http://www.mt-compass.com/index.php> 富山県警でも登山届のオンライン化推進を検討しています。

◎裏表紙に登山計画書の様式を掲載しましたので活用してください。(渋谷茂・山田信明 記)

黒菱山 (1,043m) 山行

期日：平成30年5月5日(土)

参加者：鍛冶、山田、松本、渋谷、森田

上笹川橋脇に朝日町役場から乗り合いして来た車を降り「いざ、出発」。覚悟していた1時間半の林道歩きは 山菜を横目に見ながら一生懸命歩き、崩壊場所を皆さん楽々乗り越え1時間程で終了。私はこの時点で「ばてました～」を連発していましたが「親不知の滝」や笹川のせせらぎの音のマイナスイオン効果で、ひと時癒されました。

ゆっくりしてから沢を渡って急登にかかりました。途中から残雪が出てきましたが、ザクザクと皆さん難なくクリアされました。「さて、頂上～」しかし意外にも先客が…。山凱会の皆さんが、下山されるところでした。拝見すると平均年齢は私達よりちょい上らしい。お元気ですね～。

頂上からは強い風が吹いている分、初雪山、白馬岳などの姿がくっきりと見え、雪がついた春山を堪能できました。山田さん差し入れの「柏餅」は五月晴れの山行を素敵に彩ってくれました。下りは渋谷さんが「ブナ走る」と言われた白い雪を背景に芽吹いたばかりのブナの淡い緑が優しく映える景色を眺めることが出来ました。帰りに登山口の石の標識に支部の先輩「佐伯郁夫氏」の名前を見つける「おまけ」がありました。予定より早く集合場所に到着できました。お天気に恵まれた五月山行でした。(森田裕子 記)



5 月例会山行(一般募集登山)「富山の百山・夫婦山に登ろう」(男峰 784m・女峰 740m)

期日：平成 29 年 5 月 27 日(日)

参加者：鍛冶、近藤、松本、本郷、渋谷、河合、瀬川、石溪、浦井(直)、浦井(正)、他一般 22 名

5 月最後の日曜日、快晴に恵まれ八尾駅東口に集合する。総勢 32 名、内 22 名は一般参加者で年齢は 33～76 歳、夫婦連れは 2 組。小井波盆地に入ると目の前の夫婦山はヒョウタンを真二つに割った姿だ。鍛冶支部長の挨拶が終る頃全員が再集合し二班に分かれる。

登山口から直ぐに杉林の中、シャガ、オオカメノキ等花の咲いている草木の解説をしながらゆっくりと登り始める。昔の峠道をそのまま利用しているのか九十九折りの登りやすい杉林の道に行く。植生は少なくサンカヨウ、チゴユリ、マムシグサ、ヤマユリ、イラクサ等が見られるくらいだ。40 分程歩きトチノキ、カエデの巨木、雪持ち林となり休憩かと思ひ声をかけると松本会員から 10 分余りで峠に着くとの指摘があり、そのまま進む。松瀬峠は十字路。左は男峰、右は女峰。ヤマボウシが咲き始め、アサギマダラが一頭舞っている。峠の向こうにはピラクルな祖父岳が見えている。第 2 班が上がって来たので男峰に向う。登り始めから固定ロープの連続で急登が続く。巨岩の脇を通るなど様相が一変する。途中、ハウノキ、トチノキの花が崖下に見られ、特にトチノキの穂状の花が巫女の鈴状でめずらしかったので解説する。

山頂は平らで広くヤマツツジの真赤な花とヤマボウシ、ハクウンボクの白が対照的だ。展望は抜群で、立山、剣岳等北アルプスの峰々、白木峰、金剛堂山、祖父岳、牛岳と続き、北は富山湾を一望する。全員で記念写真を撮り女峰へ向かうが急な下りに気が抜けない。峠を越しそのまま女峰へ向かう。山頂は展望が全く無く、杉や檜の木立の中にひっそりとたたずむ。周辺にはハウノキが多く白い大輪で花の香りが漂っている。ここで昼食をとった後、肌寒くなり下山開始。峠を越え登山口まで一気に下る。登山口で解散し、猿丸大夫の石碑見学、温泉直行グループ等に分かれる。

[コースタイム] 小井波登山口 9:30～9:45 発----松瀬峠 10:20-----10:50 男峰(記念撮影)----
松瀬峠 11:32----女峰 11:45(昼食)----小井波登山口 13:00 (瀬川富士夫 記)



夫婦山偵察山行

期日：平成 29 年 5 月 1 日(火)

参加者：鍛冶、松本、永山、本郷、渋谷

5 月 27 日に行われる夫婦山一般募集山行の偵察に出かける。八尾駅の駐車場に集合。桐谷集落か

ら小井波登山口に向かう。春いっぱいの華やいだ雰囲気の中を登り松瀬峠へ。峠から荒々しい岩場のロープの張られた道を登り男峰に。頂上では周囲の山々を眺める。ミツバツツジ、タムシバがきれい。男峰から峠まで戻り女峰に。険しさを味わう男峰とは違い、初々しい若葉を広げる木々のアーチの中の快適な登山道を登り女峰に。昼食を食べて松瀬峠から東松瀬に下る。小井波に下山した松本会員に迎えに来てもらった。



〔コースタイム〕 8:30 小井波登山口----9:05 松瀬峠----9:40 男峰 10:00----10:24 松瀬峠

---10:40 女峰 12:35----13:10 東松瀬登山口

(渋谷茂 記)

第 33 回播隆祭を開催

平成 30 年 6 月 3 日午前 9 時より旧大山町河内集落の播隆上人生誕の地に 35 年前に建立した「播隆上人顕頌碑」前において第 33 回播隆祭を開催した。日本山岳会富山支部、播隆上人生家の会の皆さん、富山市大山歴史民俗資料館、一般の総勢 40 名の参加があった。

鍛冶支部長の挨拶の後、全員で顕頌碑前にて焼香を行った後、会場に展示した播隆上人の遺品の説明を生家の会代表の大作一男様にお話しいただいた。展示品は現在、富山市大山歴史民俗資料館で保管されている、播隆上人が河内村の念仏道場に送ったとされる「親鸞聖人」と「蓮如上人」、「法然上人」の直筆の六字名号軸と喚鐘で、喚鐘には当時の経緯等が刻まれている貴重な資料であった。参加者一同大変興味深く解説に耳を傾け、播隆上人の業績を再確認した。その後、金尾会員による笠ヶ岳における播隆上人の登頂ルートについて、現在も行われている調査について説明を受けた。播隆上人は槍ヶ岳開山で有名ではあるが笠ヶ岳も再興されており、登頂時には一里毎に石仏を安置して道しるべとされた。その石仏は 8 体中 4 体が確認されている。確認されていない区間で 1 体でも見つければ登頂ルートが確定できるということで、各方面で調査が続けられている。富山支部としても「研究会」を発足させて調査したいという興味深い内容だった。この後参加者たちは貴重な資料を間近で鑑賞したり、直会で懇親を深めた。顕頌碑の付近では、現在開設工事中の県営林道の熊野川横断橋梁の建設工事が進行中であり、将来はここまでのアクセスも改善されることと思われる。この後は、支部会員と一般参加者で高頭山への記念登山を行った。



(河合義則 記)

記念登山・高頭山 1,210m ～友情の標識を確かめに～

期日：平成 30 年 6 月 3 日（日）

参加者：近藤、本郷、浦井夫妻、金尾、瀬川、森田、山田、一般参加6名

ここ数年は「高頭山記念登山」から遠ざかっていたが、今年はどうしても参加したいと思った。「播隆祭」に先立って行われる登山道整備。今年は特に新たな標識設置という特別な意味があったのだが、全国良寛会が佐渡で行われた日と重なり参加できなかった。幸い富山新聞朝刊に「高頭山に友情の標識設置」という見出しで詳しい記事が掲載されたのでその様子を知ることができた。そこには立派な標識と参加メンバーの写真が写っており、有澤さんの思いが見事に結実されていた。

いつの役員会であったろうか、有澤さんは「高頭山頂上に標識がないのは何とかしなければならぬ」との思いを口に出された。何年越しかで材料を揃え自ら標識の字を彫ろうとしておられた。手先の作業が苦手な私はじっと眺めているだけであった。彫刻の仕事は島津さんが引き継がれた。「菱彫り」で風格のあるものになっていた。ここでも支部会員に人材豊富なのを感じた。

有澤さんの「播隆」への篤い思いは並々のものでなかったことが思い出される。支部総務委員長として、毎年の「播隆祭」の段取りならびに司会、平成9年に植樹されたオオヤマザクラが台風？で傾いた時の修復作業での率先した働き、三枚滝への道から分岐する個所からの急登の階段づけ作業など。私の方は「播隆ゆかりの地探訪」などで各地へ出向くのに忙しかったのだが、有澤さんはしっかりと地元の施設、遺構などを大事にされていた。中村家の仏壇調査に同行したときの有澤さんの長年の思いを成し遂げたような嬉しさと安堵されたような様子が忘れられない。標識のことも、思いを口に出して伝えられ、進んで作業しておられた矢先の急逝であった。しかし、篤いところは仲間のところに伝搬し事になったのである。

有澤さんは早くから日本山岳会に入会され、富山支部では事務局長もされ途切れることなく支部役員をしておられた。そんな有澤さんに畏敬の念を抱いていたのだが、山に同行することは数少なかった。その中で記憶にあるのは、平成16年の「中央分水嶺調査（乗鞍岳～日影平山）」。「故谷村さんとのやりとりは駄洒落とその切り返しの連続で笑いが絶えなかった。平成24年の「東北山行」では早池峰山山中での放尿禁止を律儀に守りペットボトルに入れて登山口まで持ち帰られたこと。姫神山では、歩き始めてすぐに遅れ始められたので一緒に歩き、小さい頃からの話などを色々語り合いながら登ったこと。道中、車の運転を交代していたこともあり常に有澤さんが傍におられたという感じで、その後急速に親しみを持つきっかけとなった。この時、「高速を使えば東北は意外に近い。東日本大震災後、復旧派遣の話もあったのだが、行っておけば良かった」と言っておられた。

高頭山への道は登山道整備されたお蔭できれいに切り開かれていた。しかし最近山に行くことが少なくなった私には延々と続く急な登りはこたえた。それでも登り始めてすぐに「トッキョトカキョク」のホトトギスの声が聞こえ、その後もウグイス、ツツドリ、セミの声が続いた。オオカメノキ、タニウツギも目に入る。一人遅れて登っていたが頂上付近で追いつく。ギンリョウソウ、ユキツバキが迎えてくれた。頂上で立派な標識に直面し感激。参加者14名で記念撮影する。会員外の一般参加は6名。黒部山岳会女性2名、うち一人は以前よくテレビでマラソンを走る姿を拝見した広浜さんであった。支部会員の友人の男性2名、行事の問合せしてこられた男女各1名ずつ。このうち男性は3月に山口県から富山に転勤になったという。こうした熱心な方は大切にしなければならない。下りは余裕をもってブナ林の素晴らしさを感じる。ホウの葉、トチの木の花にも気付く。また、今年もアサギマダラの姿を見ることができ幸せであった。シャクナゲ平付近では葉っぱのような蛾が土の上にいた。オオマユガという名前であることを教わった。支部のメンバーには色々な

分野で詳しい方が多く、そうした方々から知らないことを聞かせてもらえるのもこの会の良さだ。

自分の山の登り方や山で感ずることも年々変わってきたが、亡き友を思い出す山というのもいいのでないか。高頭山は有澤さんを偲ぶ山になりそうだ。(金尾誠一 記)

高頭山登山道を整備し頂上に標識を設置しました

期日：平成 30 年 5 月 26 日(土)

参加者：鍛冶、山田、本郷、渋谷、島津、藤條、浦井、藤井、河合、瀬川、森田、石溪、北田

播隆祭前に行っている恒例の高頭山登山道整備は、故有澤会員のやり残された頂上への標識設置という任務が加わりました。支部会員 13 名が草刈り機、ノコギリ、カマ等を持ち、立派な標識と柱、設置のためのスコップを持ち登山口を出発しました。伸びたササや木の枝を払いながらシャクナゲの自生する展望台へ。今年は花期が早く花が散った状態でしたが、手入れの甲斐があつて群落が広がりつつあります。山頂の最高地点に「高頭山」の標識を設置しました。(北田幹夫 記)

7:30 木戸自工前集合 私にとって高頭山登山は初めてである。周囲を見渡して、やはり私が「高頭山」の標識と基礎の木片を担ぐことになるのだと覚悟する。河合会員とともに山田会員の車に同乗。途中、播隆上人生家の会代表の大作一男氏宅に立ち寄り、ゲートの鍵をお借りする。二ヶ所のゲートを開けて隘路を進む。8:40 登山口着。いよいよ初めて高頭山へ登山道整備をしながら向かうことになる。腰をかがめ鎌で草刈をしながら登る。背中のリュックが重い。すぐに汗だくになり、水分を補給しながら登山・作業を進める。皆さんから伺っていたとおり、発電用導水管の中途の道路沿いで、アサギマダラの優雅な舞に出会う。昨年、月山・蔵王インターハイでも数回見かけたことを思い出しながら登る。シャクナゲの展望台を過ぎ、いつの間にかほぼ先頭で登っていく。12:30 高頭山山頂によりやく到着。一行がそろい、島津会員を中心として設置作業を進める。13:30 標識を設置し記念写真撮影。初めての高頭山登山、初めての標識設置作業に達成感を味わうとともに、これでようやく日本山岳会富山支部に仲間入りできたのかなあと実感した。(石溪秀満 記)

[コースタイム] 8:40 登山口着—9:10 準備をして出発—12:30～13:30 高頭山山頂—15:30 登山口



富山支部に同好会「播隆研究会（仮称）」を発足します

富山支部に縁の深い播隆上人。「播隆祭」でおなじみですが、この播隆さんの功績のひとつに円空さんたちが登った「笠ヶ岳登山道の再興」がありました。残念ながら今はこの円空さんや播隆さんが登られた登山道は、その一部が未解明で「幻のルート」となっています。この「幻のルート」を復活させようというのが、当面の研究会の目的です。会員となって道なき道の現地調査に参加し

ていただける人は勿論ですが、そのほかにも後方支援や文献調査、情報提供、色々な提案、意見をいただけるのも会にとってはありがたいことです。是非多数の皆さんの参加をお待ちします。

世話人 山田信明、佐藤武彦、金尾誠一

○発足前の事前活動として、過日播隆ネットワーク会員で「幻のルート」の調査活動が続けておられる瀬瀬具幸（こうけつ ともゆき）、長谷川めぐみさんにこれまでの調査の内容をお聞きました。また登山道の一部を案内していただき一里塚の石仏（山の神）を確認しました。その概要を記します。

○日時：平成 30 年 4 月 28 日（土）10 時～16 時

場所：上宝ふるさと歴史館、登山道「観音堂」～「山の神」

参加者：（ネットワーク播隆）瀬瀬、長谷川 （富山支部）山田、佐藤、北田、瀬川、金尾

○登拝道考察（瀬瀬氏談と資料より）

- ・登山道に沿って一里ごとに九体の仏像が置かれた。（九体目は山頂阿弥陀仏）

- ・集落の登山口より一里目は「山の神」、二里目「長者屋敷」（石仏無し）、三里目「瀬畑」、四里目「横平」八里目「南西尾根」と呼ばれている。五里目から七里目が不明。

このうち一体の石仏でも見つければ登山道が解明可能。

- ・この未解明な部分については①尾根縦走、②笠谷直上、③左岸、④右岸のルートが考えられる。

- ・「横平」から先は急崖地形や大滝、小滝が現れる難路。

- ・踏査にはロープが必携。過去の踏査では山中に 2 泊。

○今回初めて「山の神」の石仏を現地で昔の人と同じように

拝ませてもらいました。登山道を登る人たちはこのようにして迎えてもらっていたのだと感激した。そこから見えた雪をまとった笠ヶ岳の姿は気高かった。そしてそこまでの道のりの遠さを感じた。何とかして昔の人々が信仰をいただいた道を復活したいと改めて思った。（金尾誠一 記）



富山支部ホームページ開設の案内

日本山岳会のホームページの中に富山支部のホームページが開設されました。

公益社団法人日本山岳会＞ROOM＞支部活動＞富山支部＞富山支部ウェブサイトとたどれば見られます。まだ新しい記事は少ないですが、今後順次追加していく予定です。

直接見るときはこちら⇒ <http://jac.or.jp/tym/> ホームページとはいってもブログ風ホームページとでもいうべきもので、データは全て日本山岳会のレンタルサーバーに保存されます。手元で管理するデータはありません。パスワードを知れば誰でも記入できるメリットがありますが、扱いに慣れるまでには人にもよりますが数週間を要します。（浦井直幸 記）

会員動向

○田邊隆一・飯田肇会員

4 月 27 日県警本部で県警山岳遭難救助アドバイザーの委嘱状交付式が開かれ、県内外の専門家 8 人がアドバイザーに就いた。山岳救助活動に助言指導するほか、隊員の講習会を行う新しい制度。

田邊さん（医療）、飯田さん（気象・雪崩）ら3人が出席。（北日本新聞から）

○「高頭山に友情の標識設置」の新聞記事を見た故有澤辰彦氏夫人からの手紙(5月30日)

「――風格のある立派な標識が建ったことを知ると同時に、島津様や柴崎様そしてメンバーの皆様のご苦勞があればこそー。と思わず熱く込みあげてくるものがありました。本当に本当にありがとうございました。亡夫辰彦の遺影にあの記事を見せて「あなただけでは、とてもこんな立派な標識は何年かけてもできなかったね。皆様のご苦勞のおかげでこんなに見事な標識が建ったよっ!」と声をかけた時、遺影が一瞬笑って見えたのは、本当に気のせいだったのでしょうか?――」

なお、播隆祭の記念登山に役立てていただければと商品券が同封されていました。

○新入会員 吉野健治 よしの けんじ (72歳) 4月入会 会員番号 16339 番 富山市城新町

自己紹介: はじめまして吉野健治と申します。今度日本山岳会に入会いたしました。学生時代より岩登りにいそしみ、40才より他のスポーツの手伝いをしてまいりました。リオデジャネイロオリンピックにて一段落しましたし、仲間の誘いもあり山登りを再開いたしました。一昨年アンデスのトレッキング、昨年ワイワッシュのトレッキング並びにピスコ峰 5750m の登頂と楽しんでおり、今年はネパールのアンナプルナトレッキングを9月・10月に行く予定です。72才になるためトレーニングしてもはかばかしくなく、歩く??速度もいまいちですが、よろしくです。

○退会者 高野 毅 (会員番号 13578)

○お詫び 会報 107 号で『分県登山ガイド 17 富山県の山』(佐伯郁夫他著) が発行されたことを紹介しました。文中で「今回の新シリーズは――概念図が大きくなり――利用しやすくなっています」と記載しましたが、掲載されているのは概念図ではなく、国土地理院の地図情報等を使用したもので精度の高い地図です。見開き 2 頁を使った地形図も 5 枚あります。お詫びして訂正いたします。

山行計画等案内

- ・日本山岳会通常総会（東京）6月23日（土）
- ・日本山岳会自然保護全国集会（石川支部：辰口町、白山高山植物園）7月8日（日）～9日（月）
- ・富山県山岳連盟創立 70 周年記念式典・祝賀会（富山市ゴルフアートとやま）7月8日（日）
- ・日本山岳会全国支部懇談会（北海道支部：大雪山）7月21日（土）～22日（日）
- ・富山支部例会（山行報告、暑気払い）8月上旬開催予定
- ・山の日記念親子登山（富山の百山：開催場所未定）8月11日（土）
- ・山の日記念全国大会（鳥取県米子市：大山）8月11日（土）
- ・9月例会山行（南アルプス：光(テカリ)岳）9月14日（金）～16日（日）
- ・10月例会山行（月山）10月5日（金）～7日（日）

編 集 後 記

支部創立 70 周年記念式典を始めとした一連の事業が無事に終わり、支部長を始め役員が変わりました。この度、編集委員長として会誌発行等の重責を担うこととなりました。新たに正橋委員を迎え、編集委員会で工夫しながら親しみやすい会報に仕上げていきます。会員各位のご協力をお願いします。登山計画書の提出方法が決まり本誌に詳細を記載しました。遭難を未然に防止し安全な登山に努めましょう。（北田幹夫 記）

公益社団法人日本山岳会 富山支部会報 第 108 号

発行者：鍛冶哲郎 編集者：北田幹夫・正橋立子

事務局 〒939-8095 富山市大泉中町 7-52-204 河合義則方

電話 076-492-3936 090-4326-6197 E メール kawa-mori55@air.ocn.ne.jp

登山計画書

提出日 年 月 日

御中

緊急連絡先

所属山岳部 (公)日本山岳会富山支部
 代表者 支部長 鍛冶 哲郎
 所在地 938-0801 富山県黒部市荻生 70
 連絡先 0765-54-2139 FAX 0765-54-2139

氏名
 住所
 携帯電話番号
 電話番号

「山域・山名」

「山行期間」

年 月 日～ 月 日

担務	氏名 (会員外記入)	生年月日 年齢	性別	血液型	現住所 自宅電話・携帯電話	緊急連絡先		
CL			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		
			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		
			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		
			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		
			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		
			男			氏名(続柄)		
		年齢	女			電話番号		

月 日	行 動 予 定 (緊急時の行動も記載の事)

共同装備	品名	個数	担当	品名	個数	担当	品名	個数	担当
	地図			コンロ			ロープ		
	コンパス			コッフェル			ロールペーパー		
	ツェルト			テント			GPS		
	救急用品			ガスボンベ			食料		

※該当の個人装備に○印を

個人装備	品名	個数	品名	個数	品名	個数	品名	個数
	ヘッドランプ		持病薬		カメラ		ティッシュ	
	水筒		健康保険書		ザック		手袋	
	雨具		ストック		防寒服		サングラス	
	時計		ホイッスル		ザックカバー		湿布薬	
	着替		ナイフ		シュラフ		帽子	
	携帯トイレ		筆記用具		日焼け止め		虫除け	
	登山シャツ		登山靴		靴下(予備含む)		ズボン	